

館報

800号まで
あと3つ



9月号

No. 797

令和4年
(2022年)

やまがた



※表紙の写真は撮影のためマスクを外してもらっています。

地元で作る米の魅力を伝えたい 中野 ^{つよし}剛さん (下竹田)

山形村で米農家が減っていく中、コシヒカリ米を約30年作り続けた父から栽培技術を引き継いで新規就農した剛さん。黒川地籍と波田地籍の2ヶ所の水田で栽培した米は農協へ出荷するほか、県内外の飲食店にも出荷しているそうです。

良い米を作るために「水の管理に一番気を使います。栽培で困ったことがあれば近隣の米農家の皆さんが親切に相談にのってくれるので心強いです。これからも地元で米を作り続けていきたいと思います」と真剣な眼差しで話してくれました。

(9月1日 コシヒカリ田園にて)

働姿

告知板

〈公民館、文化団体連絡協議会よりお知らせ〉

新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、本年度の総合文化祭は中止とし、そのかわりに…

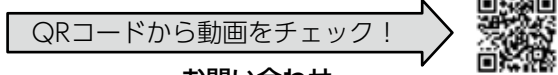
「秋の発表会」を開催します！

芸能部門と展示部門の2つの部門に分かれて、日頃の活動成果を披露します。

詳細は10月下旬の全戸配布にてお知らせ予定です。お楽しみに♪

〈公民館主催モルック大会迫る〉

モルックのルールは分かったけど、投げ方が分からないといった質問をいただくことがあります。山形村スポーツ推進委員会で投げ方とモルックアウト(延長戦)のYouTube動画を配信していますので、ぜひご覧ください。



QRコードから動画をチェック！

お問い合わせ

山形村公民館 ☎0263-98-3115



ミラ・フード館開館&天体協
力者の会発足30周年を記念し
て、1階展示場で8月12日(金)
まで記念展示が行われました。

平成3年の着工の様子や時事の新聞記事、天体観測の記録など、ミラ・フード館30年の歴史をパネルで紹介していました。
天体協力者の会は、ミラ・フード館天体観測室「コスモ」の天体望遠鏡を活用して月2回、観測会を開催しています。開催日は生涯学習カレンダーに掲載していますので、この機会にぜひ、ミラ・フード館に足を運んでみてはいかがでしょうか。



村民ゴルフ大会

当日は、惜しくも天候に恵まれませんでしたが、110名を超える参加者は久しぶりの仲間とのプレーを楽しんでいました。



9月7日(水)
安曇野市の豊科カントリー倶楽部にて第25回山形村民ゴルフ大会が開催されました。コロナ禍で2年連続中止となつてしまいましたが、今年3年ぶりに開催

大会上位表彰者

優勝	種田 亮太さん(上竹田)
準優勝	中川 智視さん(上大池)
ベストグロス賞(男子)	小林 宣章さん(小坂)
ベストグロス賞(女子)	川上 幸子さん(上竹田)

村長杯マレットゴルフ大会

8月21日(日)、なろう原公園マレットゴルフコースにて、第7回村長杯マレットゴルフ大会が行われました。前日まで降り続いた雨が心配でしたが、当日は晴れ間も見え、心地よい空のもとでの大会となりました。
会場内は、ステイックでボールを叩く音と笑い声が響き、参加者のみなさんは楽しい時間を過ごしていました。



大会上位表彰者

優勝	百瀬 利春さん(小坂)
準優勝	赤羽 誠さん(下竹田)
3位	桐原 淑子さん(上竹田)

山すそ

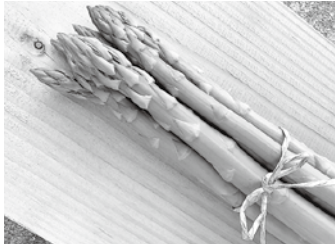
ついで、少し前まで、「酷暑」という言葉が似合うくらいに、気が付けば過ごしやすい気候になった。子ども

の頃、「お盆を過ぎたら涼しくなる」と聞かされていたが、まったくその通りだ。そういえば、『残暑』なんて言葉もあった気がするが▼ やつと涼しくなつたと思いきや、このところ、週末は雨ばかりになってる。アウトドアな趣味しかない私にとつては非常に痛手である。やつと気持ちよく遊べる時期なのに：▼その雨の降り方も変わつてきている。雨といえばジョロで花に水をかけるようなイメージであったが、先端のノズルが取れてしまったかのようになり、『線状降水帯』という言葉も頻りに耳にするようになった。もちろん、自然の恵みであることには変わらないが、降り方が変わってきたことにより災害などへの心構えも必要だと思ふ▼9月は『防災』という言葉に耳にすることが多い月だ。雨にちなんだこと以外でも、心構えをしてみようと思ふ。

(特集は4・5ページで！)

館報 調査隊

山形村の名産が大ピンチ! ～グリーンアスパラガスの現状～



以前はユリ科に分類されていたがDNAによる新分類(APG体系)によりキジカクシ科に分類された。
注)日本ではキジカクシ目・科=クサスギカズラ目・科とも呼ばれており、これは呼び名が違っただけで同じである。

山形村で1年のうち最も早く農協出荷が始まる特産品『グリーンアスパラガス』(以下アスパラ)の生産が大きく落ち込んでいます。
6月30日(木)、令和4年度松本ハイランド農協山形支所アスパラ共選所の移動が終了し、出荷数量は10万560束(1束約100g)となりました。出荷量の推移は平成23年の72万2千束をピークに過去最低だった昨年(令和3年)が17万束となり、今年はさらに60%にまで出荷量が減少した計算になります。

今期の減産原因として、主に露地栽培アスパラの多くが欠株、または株の弱体化が発生したことが挙げられます。これは令和2年の異常な長梅雨、令和3年の8月豪雨で管理作業が難しかったこと、そして今春の低温など不安定な気候が影響しているのは間違いないさそうですが、具体的な原因究明は困難だと思われます。加えて高齢化のため引退した農家が相次いだことも重なり、作付け面積の低下が追い打ちとなりました。
山形村のアスパラ栽培は、消費者の洋食志向による認知拡大と、生産者側では春先の貴重な収入源になることから爆発的に生産面積が増加していききました。平成10年には長野県が全国1位の生産規模に至り、山形村はこれを支える一角となります。しかし、時代の流れとともに、露地アスパラは収穫後の管理が欠かせないこと、茎枯れ病が発生すると収量が落ちること、盗難が多発すること、遅霜や春先の強風で被害を受けやすいことなど、悩ましい事態がたびたび起こるため別の作目に取り替える農家が多くなったのが現状です。

アスパラは安定出荷まで少なくとも3年の歳月が必要ですが、夏季に適切な管理を行えば、春先の貴重な収入を得られる魅力的な作物です。市場や量販店からの要望も高いため、松本ハイランド農協では生産量の復活を目指して、簡易雨よけ栽培やハウス栽培、高畝式栽培など、作業の負担軽減と天候の影響を受けにくい栽培法を広げるなど、生産者を増やす方策を練っているとのことでした。



高畝式栽培の一例

古代ローマ時代から食され、人を魅了してきたアスパラ。筆者も魅惑的な味わいに取りつかれた生産者の一人ですが、新規参入はもろろん、多くの農家に戻ってきてほしいと切に願っています。

家庭菜園 気軽に たのしく おいしく

～野菜作り体験レポート③～

家庭菜園ビギナーの編集部員Mが、地域おこし協力隊OBで野菜作りが大好きな穴澤雅美さん(上大池)に教わり、自分サイズの生活に合わせた“小さな畑”を始めて3ヶ月。今回は、いよいよ最後の収穫を迎えました。

野菜作りのポイントである「目当たりの良さ」は、まさにその通りで、夏の日差しを浴びた野菜たちは大きく成長し、待ちに待った収穫の時期がきました。ミニ人参は子どもたちのおやつに、レタスや空芯菜は夕食の一品にと大活躍だった野菜たち。けれど、独特の辛みがあるルッコラだけは子どもたちも手が伸びず、穴澤さんに風味を活かした食べ方を聞いてみました。「ハンバーグと一緒に食べたり、ピザにのせても美味しいかも」と

言うので、ピザ生地にルッコラをのせて焼いてみることに。「美味しい!」と予想外に喜び子どもたちに続いて、一口頬張ってみると、あれ?辛みがしない…。どうやら加熱した後にはのせるという意味だったらしく、「だからかー」と笑いがこぼれました。
「実はルッコラのお花も食べられますよ」という穴澤さん。その言葉に驚き、可憐な白い花を口に含んでみました。口全体に広がる香りに、葉も花も余すことなく、自然からの恵みだということに気づかされました。実際に野菜作りを体験してみて、失敗や発見もありましたが、一番の印象は野菜に愛おしさを感じたこと。育てる楽しさと収穫の喜びを原動力に来年の春も挑戦したいと思っています。



初めて食べたルッコラの花



美味しく焼きました!!

特集

9月4日(日)、山形村総合防災訓練が行われました。コロナ禍によって、顔を合わせる機会の減った隣近所の方との会話でにぎわったことでしょう。また、トレーニングセンター体育館では役場職員が中心になって有事の際の避難所開設訓練が行われました。体育館には132区画分の間仕切りが収容されており、いざという時には間仕切りで囲って避難することができます。最近では地震が少ないので安心しているかもしれませんが、もしもの時の訓練です。今回、避難所での設備などを紹介します。

各地区での取り組み

学校・保育園での取り組み

一昨年と同様に、第一避難場所(各集合点)に集まった後、連絡長によって第二避難所(公民館、公会堂など)での人員報告が行われました。



第一避難場所での点呼(上大池)



第一避難場所での点呼(中大池)



第二避難所での人員報告(上大池)



第二避難所での人員報告(小坂)



消防団活動(上竹田)

～山形保育園～

9月14日(木)、避難訓練が行われました。今回は、地震を想定した訓練で園児たちは先生の言うたことを真剣に聞きながら避難行動していました。普段の園での雰囲気とは違い、緊張した面持ちで臨んでいる姿を見て、小さいながらも災害の恐さを身をもって感じている様子がうかがえました。

※山形小学校の取り組みは次号以降に掲載します。



～やまのこ保育園～

9月8日(木)、地震の発生を想定しての避難訓練が行われました。不測の事態に備え、園全体での訓練を毎月1回実施しており、避難経路や通報手段の確認、園児たちにも危険から身を守るよう訓練の大切さを伝えていました。



～鉢盛中学校～

9月1日(木)、防災訓練が行われました。防災の日にあわせて実施した今回の訓練は、実際の災害を想定して実施時刻を予告せずに実施しましたが、全員落ち着いて迅速に避難することができました。



真剣に取り組む様子が伝わってきます



点呼中も落ち着いていました

防災

避難所用間仕切り

アルミパイプを田の字に接続し、布を梁と土台部分に通して壁代わりとするもので、一室は210cm四方、床にアルミ蒸着の発泡スチロールマットを敷いて完成です。簡易ベッドが入ってもまだ空間に余裕があります。密閉性はないので防音や防寒性能はありません。



マンホールの上の折り畳み式の便座を置き、下水管に排泄物を直接落とすトイレです。便座の下に筒状のビニールを付けて、下水管に直結します。使用後は便座の下で蓋をします。トイレの目隠しのためのテントは110cm四方、高さ190cmの四角錐型で必要最低限の大きさです。より大きなマンホールの上に設置するための足場となる板もあります。



マンホールトイレ

マンホールトイレ

いずれの備品もそれぞれ軽く、組み立ては難しくありません。避難してきた人が組み立て図を見ながら作ることもできそうです。災害時、誰がどこにいるのか把握するのが同様にどこに何が備えてあるのかを把握しているのは備えの一部でしょう。下に記載している村からのLINEなども活用して、日頃から防災意識を高めていただければと思います。



体育館とグラウンドの間の道路に管を埋設してあるので、そこに設置する場合はテントの端を石などで押さえて固定します。障がい者用のテントは幅180cm、奥行120cm、高さ220cmの大きさがありません。

防災・災害情報通知の手段、情報が命

防災・災害情報を『LINE』や『メール』で知ることができます

今やスマートフォン利用者などでお馴染みの『LINE』や『電子メール』を利用して防災情報を知ることができます。『LINE』では山形村公式アカウントから、『電子メール』では山形村防災メールから情報の配信を行っています。



LINEのメッセージ画面



山形村防災メールの登録はこちらのQRコードを読み取ってください。



山形村公式LINEの登録はこちらのQRコードを読み取ってください。

いずれも防災・災害情報やJアラート(全国瞬時警報システム)を発信し、身の安全確保や避難に役立つ情報を得ることができます。ぜひこの機会に登録してみたいかですか。

防災拠点での公衆無線LAN(無料Wi-Fi)が整備されました

防災拠点の『役場庁舎』、指定避難所の『農業者トレーニングセンター』及び福祉避難所の『保健福祉センターいちいの里』に公衆無線LAN(無料Wi-Fi)が整備されました。災害時でも避難所で村民が制限なく情報を得られるようになっていきます。

このマークが目印！災害時でなくても、利用できます。
【注意】60分間使用すると再接続の必要があります。





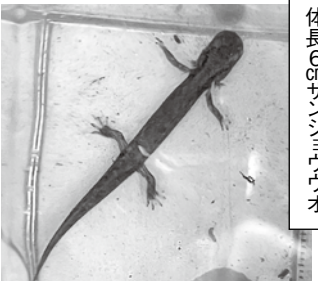
やまがた Yふるさとレンジャー隊

生き物観察会@清水高原

8月21日(日)、Yふるさとレンジャー隊(YFR)による川の生き物観察会が行われました。参加者は総勢28名で、YFR隊員・シニアサポーターのほか、長野美術専門学校(学生・講師)・社会教育委員、公民館講座おやじ塾参加者など多様な構成でトレーニングセンター前を出発し、目的地の清水高原に流れる沢へと向かいました。

参加者は沢に降りて、川底をザルですくいながら生き物の探索を行いました。

体長6cmサンショウウオ



上條一則さんコメント
子どもの時に見たのが最後だったので、今回見る事ができてうれしかったです。サンショウウオが生存できる環境が現在まで保たれており、この環境が今後も保全されていくことを願います。



公民館講座

活き生き塾活動記録

大根の種まき (8月23日火)

公民館関係者が管理する圃場にて、大根の種まきを行いました。

黒マルチが張られた2畝におよそ40cm間隔ずつ種を全員で協力してまきました。大根では『スジまき』が一般的ですが、マルチを張ることで発芽が早いことや慣れない方にも作業しやすく、手入れが少ない方法をと



あららぎ学舎 日本刺繍講座

8月25日(木)、清水寺境内にある清水高原文化交流施設「あららぎの庄」にて、『あららぎ学舎』が開催されました。これは、麓にはない静寂さが得られる清水高原の文化交流施設を村民に広く周知・利用してもらうことを目的に今年度から新たに始まりました。

第1弾は、平野珠恵さん(清水高原)を講師に迎えて、『日本刺繍講座(全6回)』を予定し、花の模様を刺繍したポー

チと額絵の制作を11月上旬まで行います。日本刺繍歴14年の経験を持つ平野さんは、「気負わず、楽しくやりました」と参加者に話しかけ、日本刺繍の特徴である絹糸について「光沢を楽しんでほしい」とその魅力を紹介していました。

作業では、生地を木枠にたるみなく張って固定した後、『釜糸』と呼ばれる柔らかな絹糸を縫い合わせてから、針で刺繍していきましました。縫いをかけることによって絹糸の強度が増すと同時に本来持つ光沢が引き立つそうです。初めて日本刺繍に触れる参加



者がほとんどでしたが、「優しく指導くださり、自分のペースで作業できました」「ツヤツヤでフワフワの絹の触感に、高価で大切にされた理由が実感できました」と感想が聞かれました。

- おめでた字(題)
- 山田 爽華・修市・上竹田
 - 山崎 香穂・和佳・上大池
 - 齊藤 結菜・周治・下竹田
 - 土屋 弘子・85歳・下竹田
 - 中村 寿男・80歳・上大池



糸車 ⑭



旧ふるさと伝承館で展示されていた時の様子



発掘調査で見つかった時の様子

前月号の『ミニ・糸車』号外にてお知らせしました塩尻市立平出博物館の企画展『交流のはじまり』、皆さまご覧いただけただけでしょうか。展示では、山形村指定文化財の『ひすい製大珠』が公開され、他市町村で所蔵されている貴重な土器や石器と共に披露目されました。役目を終えた『ひすい製大珠』は、一緒に貸し出されたひすいの原石と併せて現在は村の文化財収蔵庫へ戻され、静かに次の出番を待っています。

今回展示された『ひすい製大珠』は、上大池にある縄文時代の遺跡、淀の内遺跡から出土しました。平成13年の発掘調査で合計3点見つかりましたが、いずれも光沢を放つほどピカピカに磨かれ、小さな穴がけられています。この穴に紐を通してペンダントのように使われていたとされ、特別な人物が持つ貴重品であったと考えられています。日本で見えない緑色を発するひすいは、新潟県糸魚川市周辺でしか採取できないので、他の地域との交流を証明する資料です。

また、同じ、淀の内遺跡からは、ひすいの原石や破片も複数見つかり、全国的にも大変珍しいといわれています。村のなかでも原石を加工して大珠をつくる技術があったのでしょうか。こちらもワクワクするような想像が膨らむ貴重な資料です。

みんなの人権 ⑨6

「ずく出して夏の大河川清掃！」に思う

～地域課題に気づく子どもたちと主権者教育～

約60名。今回は、公民館講座おやじ塾参加者といった大人に混じって、20名ほどの山形小学校や鉢盛中学校の、山形っ子たちが大活躍してくれました。作業を終えて、170kgもの回収ゴミを前にした汗びっしょりの小学生は「人ってこんなにゴミを捨てているんだ」と驚き、仲間と一緒に参加してくれた中学生は「暑かったけど、友達と一緒に楽しかった」と、地元ケーブルTVのインタビューに答えていました。《ゴミの多さ》への気づき。そして、仲間や大人と一緒に活動することの《楽しさ》。二人の応答の中に、地域課題への「気づき」の瞬間と、『課題解決』の糸口を見ることができ、うれしくなりました。◇そして、令和元年の夏、当時山形小学校6年生（現鉢盛中学校3年生）と一緒に「ふるさと学習」のフィールドワークに出かけたときの一コマを思い出していました。三間沢川上流の堂ヶ入沢に、昭和20年に起きた豪雨災害の現場を訪ねた時のことでした。沢沿いに散らばる不法投棄らしきプラスチックゴミの山を見た子どもたちが、そのゴミを拾い始めたのです。女子の一人が、「このプラスチックゴミって、流れ流れて日本海まで行き着くんだよね。海を汚す出発点にはなりたくないよね」とそっと教えてくれたのです。（優の風景⑨2）山形村の「忘れない」参照）◇世界中で排出される大量のプラスチックゴミが海を汚しており、SDGs・17目標の14番目にも『海の豊かさを守ろう』が掲げられています。大海の最上流に位置する海なし県・長野も『海の生きものを守ろうプロジェクト』を展開しています◇このゴミ問題に強い関心を寄せる北信の当時高校生Kさんは、昨年、某TV局のバラエティ番組「逃走中」をヒントに、ゲームと『ゴミ拾い』を合体させて、『清掃中』なるイベントを立ち上げ、県内各地で取り組み中とのこと。「楽しみながら環境問題を知ってもらうことが、環境問題を深く考える入り口」と、遊び感覚の清掃運動を推進中とか。（ポータルサイト ナガクル等参照）◇山形っ子が、河川清掃のみならず、Yふるさとレンジャー隊や地区の祭り、防災訓練や三九郎などに大人と一緒に参加して、地域課題に気づき、その解決の糸口を地域に発信してくれることは、村の将来を担うための、大事な主権者教育にもつながっていくものと思います。（令和4年9月 M.H. 記）



◇7月下旬の暑い日、村を挙げて、夏の河川清掃が行われました。題して「ずく出して 夏の大河川清掃！」。住民課主催のこの連続企画に集まった村民は

ワインに
かける



村唯一のワイナリーで 村の新名物を手掛ける 小林 ^{かずとし} 和俊さん (小坂)



「技術もさることながら美味しいワインを造るには畑も重要」と、ワイン造りと同じようにぶどうの栽培にも気を遣い、ワインにかける想いが強く伝わってきました。



研修生へワインへの想いを伝える小林さん

取材したこの日は、昨年仕込みを終えたシャルドネやメルローを樽からタンクに移す作業を行っており、一部肉眼で確認できるように設計された専用のホースを使って真剣な眼差しで純度などを確認していました。「樽を使うのは薫りがプラスされ、より重厚なワインになるから」と和俊さん。

またこの日は、将来ワイナリーをやりたいという研修生2名にワイン造りを教えており、さまざまな角度からの質問にも丁寧にポイントを伝えていました。筆者の印象に残ったのは「赤ワインはろ過をしないが、白ワインはろ過を加え純度を磨いていく。ただ、旨味も同時にろ過されてしまうので、バランスをとるのが難しい」とワインの種類による醸造の違いを教えてくださいました。

山形村にワイナリーがあることを読者の皆さんはご存じでしょうか。平成26年に、小坂地区で設立されたワイナリー『有限会社むかいや(大池ワイン)』入社3年目から携わり、山形村の新名物になったワインやシールドルを手掛ける小林和俊さん取材しました。

やまがた Smile

今月のテーマ
サークル紹介

山形村エコライフを考える会 紹介者(代表): 稲田 ^{もとひろ} 元宏さん (小坂)



役場駐車場での不用食器回収
(令和4年7月10日)

～館報やまがたへの情報提供募集中～

身近な情報・感想をお寄せください

入力フォーム 右のQRコードを読み取ってください。

メール 下記アドレスへメール送信してください。

kanpou@vill.yamagata.nagano.jp

電話 ☎0263-98-3155 (山形村公民館)



山形村エコライフを考える会

会員数: 17名

興味のある方、一緒に活動しませんか。

団体へのお問い合わせは

山形村教育委員会 (☎0263-98-3155) まで



山形小学校でのアルミ缶回収
(令和4年4月18日)

村民を中心に活動している『山形村エコライフを考える会』の起源は、平成17年に公民館講座で開催されたエコロジー教室です。信州大学を退官された教授が中心になって、環境問題について学んだことから私も含め、当時の受講生たちでより実践的な活動をしてみよう、翌年にアルミ缶や一升瓶の回収を行ったことが現在の活動の原点になりました。初めは、回収する範囲も仲間内だけでしたが、少しずつ協力者が増え、活動が認知されました。

現在は、村役場駐車場で一升瓶とアルミ缶の回収を行い、山形小学校の一角を借りて保管してあるアルミ缶とまとめて業者に届けています。また、村役場職員と共同で不用になった食器類の回収も行い、状態の良いものは『もったいない市』として、必要な方に無償で配布を行っています。

限りある資源を大切に、この先も循環されるよう、再資源化に取り組んでいる私たちの活動に参加して下さる方を歓迎します。

山形村公民館報『館報やまがた』No.797 9月号 令和4年9月発行

編集と発行/長野県東筑摩郡山形村公民館 印刷/カシヨ株式会社

館報やまがたのバックナンバーは村のホームページ(こちらのQRコードから)でも見ることができます→

